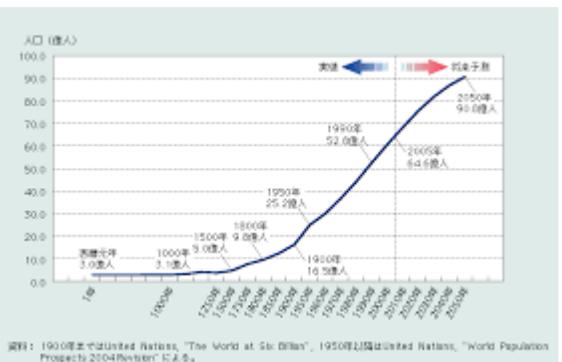


2020/11/25

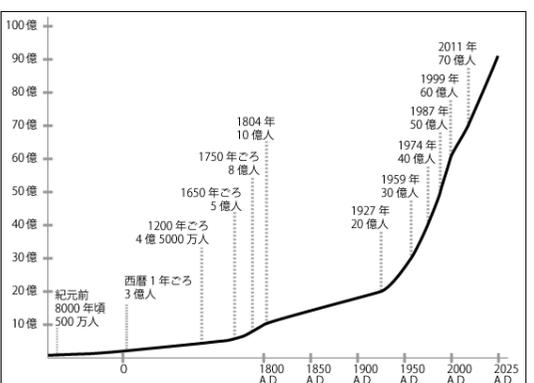
(うと)〇世話し 「世界人口推移グラフ」から突き付けられたニューノーマルの絵姿)

(左記の図は後段の説明を分かり易くする為に、敢えて逆順並べに致しております)

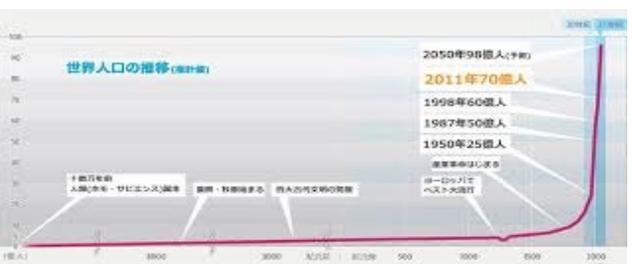
(C)



(B)



(A)



以前の記事で、ニューノーマルでは(1)割経済(1)割減)ではなく(2)割経済(3)割減)でなくてはならないのでは？

という記事を書きましたところ大変なご不興を買いました。

「本当に商売している人間なのか？」

「何を考えていやがるんだ、てめえは」

「どこの回し者だ。どんな裏があるんだ？」

等等。

その時、咄嗟に思ったのが

「頭の中で描いている絵姿(グラフ)が違うのではないだろうか？」

という事でした。

例えば時間軸(年代)の目盛りの取り方によって人口増加のグラフの見え方が全く変わってくるからです。

人類誕生以来の年代を均等にとったグラフと(2)、紀元0年以降を細かくとったグラフ(B)、それと凡そ200年前の産業革命以降を小刻みにとったグラフ(C)とでは、見るものが受ける印象がまるで違ってきます。

我々がよく目にする世界人口推移のグラフは大体が(C)産業革命以降の目盛りを細かくと

ったものです。

これだと、2020年に向かってくるカーブがかなり緩やかになります。

それが(B)になるとやや立ち上がってきます。

譬えて言えば(C)が丘陵地帯で、(B)が里山とか裏の山くらいの立ち上がりです。

ところが年代を均等にとった(A)となると、そのカーブはカーブどころか、まるで床を張っていたミミズが急に壁を登り始めたようなほぼ垂直に近い「逆」字」にも等しい見え方になります。ミミズの胸から下の胴体部分が床に接し、肩から上の頭の部分が壁面に接している絵姿です。

それなので自分はこの、(A)のグラフを見て驚愕したわけです。

「こりゃ、無茶苦茶な(増加率だ)」「これじゃ人間は天に槍を突きつけているのと同じじゃないか」(この場合の「天」というのは、地球乃至はその自然体系の事です。生態系メカニズムともいえます)

そんな訳で自分はあるような文章を書いたわけです。

「ひよっとしたら、人類が存続するためには「割経済でもまだ減少率が足りないのかもしれない(即ち抑制率 ∞ 割)。「割、換言すれば半分経済(抑制率 ∞ 割 \parallel 身の丈半分、欲望半分)でないといけない場合も在り得る」

それではいくら何でも度が過ぎそうなので、「割経済で押し留めた次第だったのです。

正直、恐ろしさに身が震えました。

しかし見てしまったものを誤魔化す訳にも参りませんので、上梓申し上げた次第でございます。